

に、我権益擁護の爲に、生命を捧げて盡夜をわかつた、御奮闘下さる諸君の御苦勞に對して、あけられ心から感謝して居るのであります。而して赫々たる武勳を立てて、

### 内郷村報の 六大使命

- 一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
- 三、本村共済事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事美行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

# 内郷村報

發行所 石城郡内郷村  
 編輯部 大内民惠  
 印刷部 大内民惠  
 電話 八四二〇  
 代價部 大内民惠  
 電話 八四二〇  
 發行日 一月一回  
 電話 八四二〇  
 電話 八四二〇  
 電話 八四二〇  
 電話 八四二〇

## あはれ動物的 紳士淑女と教育家

大内民惠

それは去年の九月十一日越線を通つて新潟に行くべく、午前五時二十分綴驛發の上り列車に乗つたのである。見ると我座席の反對の側に、一行老若二組の夫婦が、各々夫婦相對して四つの腰掛、即ち八人の座席を占領して居つた。勿論車内は空いて居つたのだから何も差支はないのである。其服装動作話題等から觀察すると、さう見ても中流以上の生活者で、相當教養ある紳士淑女の人々で、若き新婚、老いたるは其仲人らしく思はれた。湯本を出る頃から食事をはしめ、高萩まで終り、其辨當の空箱ゆで玉子の殻、キャラメル、の包紙、果物の皮等は、野分に座席の床に放られたりして此あたりから、男女

通學生や通勤者が、ぞろぞろ乗り込んで、忽ち満員となり、立つて居る人さへ少なくなつた。然るに例の老紳士は新聞を、老夫人は手巾を顔にあて、脇掛を枕として狸寝入りをする。若き一組は同じく相對して横はり、あたりも憚からず喃々喋々、何れも何れ席を譲らうともしないのである。

記者は之を望見した時に、小屋を想像せざるを得なかつたのである。それから又記者は、十一月十五日に、澁澤翁の葬儀に、上京參列すべく、午前零時五十三分同じく綴驛發の列車に乗つたのであつた。よい塩梅に睡りに入り、助川や水戸を夢うつ、の間に過ぎて二三驛も越したかと思ふ頃、ぞや／＼と一杯機嫌で十數人の一行が乗り込んで來て、乗客一同の睡りを醒まして仕舞つたのである。一行中には四人の婦人も交つて居つた。而して彼等は後方空席の一角を占領してまるで動物園の檻に飼はれるのである。

猿 があるかの様に、喧々囂々、歌ふやら巫山戯るやらの亂暴をつつて居るのである。其服装や人柄を見、お互が何々先生と呼稱する處を聞くと、正しく小學校の校長や訓導連で、其日ははる米國野球團の試合見物に行つたのである。像出來たのである。上の二例の如きは一般乗客の間には平氣で行はれる事である。敢て之を答め立てする迄の事はない。かも知れぬが、苟も人の師表となるべき紳士淑女や、教場で公德を云々する教育家達が、豚や猿にも等しき動作をして、恬として顧みない。其の限りといふべきである。世界で列車内の公德がよあるのは米國であるが、彼



(日二十二月二十) てみ園を人山波小 内大 崎川 入山 息令崎濱 井深小 崎濱 橋石 中田

本村各學校に於て、十幾ヶ條かの訓練要項を掲げて、父兄の希望や意見を徴して居るが、之は頗る結構な事であると思ふ。希くはかうした公德方面にも教材をとつて、先づ先生方から範を垂れて、兒童を薰化せられん事を切望する。

寒雷や二千石共 醒めにけり

の國では、「車内を他家の座敷と思へ」といつて、清潔静肅は勿論、互に禮儀を正しくする事は、驚くばかりである。それは日本に於ても、東京附近の省線電車内などは、よく風紀が保たれて居るに徴すれば、其設備監督と、乗客の心掛次第ではどうにもなるのではないかと思はれる。されど其何れにした處で、我々は世界の一等國民である。其設備や監督を待つ迄もなく、御同様お互に相成めて、豚

公認で落づれば 自認で打つて出る (民惠)

或る猿の真似をする様な事は慎みたいと思ふのである。既報の通り近頃

御座候(後略) 記者宛  
 出征勇士諸君に御願  
 お暇の折に御通信下さい。短い  
 は其儘、長いのは抄略して掲載  
 いたします。尙御寫眞も戴きたい。

# 採炭第一線の撰手

## 鑿岩競技に妙腕を振ふ

鑿炭に於ては、鶴田顧問  
來山以來、作業の機械化合  
理化によつて、能率増進を  
圖り、第一線に立つ従業員  
諸氏亦涙ぐまじき奮勵によ  
つて其技大に進み、採炭經  
費遞減の好成绩を擧げつ、  
ある事は、既報の通りであ  
るが、新春劈頭一月二日、  
全山の幹部總出動で、各坑  
従業員應援の下に、高坂坑  
事務所下の砂岩崖壁を標的  
として、鑿岩大競技會を舉  
行し、集會場に於て、鶴田  
賞の授與式を行ひ、祝杯を  
擧げて散會した。其二人一  
組の選手名と等級順は左の  
通りである。



鑿岩競技の光景

- 職員之部
- 高坂中央 箱崎一二 結城 益美
  - 綴金谷 佐藤金平 赤沼 慶三
  - 綴堅 沖野照明 關 貞三
  - 高坂四昇 仙北義太郎 赤津淺之助
  - 高坂三卸 瀬谷竹一 佐竹 廣治
  - 高坂切替 土谷助治 照井正之助
  - 綴夫之部
  - 綴堅 遠藤辰一 青名如與三郎
  - 綴金谷 國分桂司 黒澤 勝一
  - 綴堅 大瀧儀一 羽田 勝一
  - 高坂中央 泉 仁守 安藤 登吉
  - 綴金谷 根本繁作 八木深直吉
  - 高坂中央 中館末一 舟木 七郎
  - 高坂四昇 石井政吉 根本 繁
  - 高坂四昇 佐々木豊吉 伊達 榮助
  - 高坂三卸 村上喜市 青山 崔村
  - 高坂切替 藁谷安義 鈴木 彌平

本年度入營者  
の氏名隊名は左の通りである

- 歩兵七十三 橋本竹三郎
- 歩兵二十九 箱崎 武勇
- 同 鈴木巳喜雄
- 同 渡邊 保
- 鐵道第一 三富 竹藏
- 歩兵十五 鈴木吉之助
- 野砲八 伊藤猪之吉
- 同 伊藤 哲郎
- 同 金 俊雄
- 同 吉田 丑藏
- 飛行第五 入澤 德英
- 歩兵一 三澤 勝藏
- 同 中村 芳夫
- 野砲第二 柳沼 淺義
- 歩兵四 目黒 兵市
- 輜重第二 宮野 勝親
- 近兵三幹部候補生 島田 信勝
- 參軍車中にて 民 惠
- 喜びて聞く汽車の中かな

# 第二回政見聴聞會

記者首唱の選舉革新案實  
現を期する爲、第一面記載  
の通り聴聞會を開催する。か  
ら多數の來會を希望する。  
尙念の爲來會者に對して豫  
め左の件を御願する。  
一、紳士的態度を以て、靜  
肅に聴聞して戴きたい。  
二、若し萬一場内の靜肅を  
破るか、或は候補者及紹介  
者に對して、無禮の行動を  
とらるゝが如き方がある場  
合は遠慮なく退場を求めま  
すから、豫め承諾して入場  
して戴きたい。  
三、全く一家の主催で、  
場内整理迄に手が廻らぬか  
ら、其点に同情せられて、  
前二項を厳守して戴きたい

## 鑿炭役付會議

一月十日集會所に於て、  
役付者百五名、勞務課員二  
十名出席の下に、役付會を  
開催し、青森縣凶作救濟義  
本紙贊助金寄贈芳名

- 金貳拾五錢 内郷 吉田 金作
- 金貳圓 同 某 氏
- 金貳圓 神戶 巖真 穂
- 金貳圓 湯本 馬目徳次郎
- 金五圓 樺太 渡部 孝一
- 金五拾錢 二本松 穂積 豊松
- 金五拾錢 同 小島 里治
- 金壹圓 平町 鈴木染物店

勅諭下賜記念式  
帝國在郷軍人會内郷分會  
では、一月四日高坂坑に於  
て、軍人勅諭下賜五十年  
記念式を舉行した。杉山會  
長之を司式し多數の參列者  
があつた。

内郷武徳會 二月六日  
開催。演武競技を行ひ、佐  
藤部長の告別式を擧ぐ。重  
なる出席者石橋猪狩大友七  
海根本の諸氏。

# 教育制度改革概論

矢野 恒太序 大内民惠著  
服部宇之吉

(四六版二二頁 定價五十錢 郵税六錢)

行き詰れる現代の教育制度を解體し  
て、學理と實際と、歴史と實驗とを  
ら新に大内案九主義を提唱す。天下  
知名の士の賛同攻撃に迫らる。ま  
れど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威  
京大教授小西重直博士  
書を寄せて曰く、多年の御體験と實地  
の御試練とを基に眞學愛國ノ大精神ヲ拜  
味仕り不思議ニ打テ申候云々。

發行所 日本評論社  
東京丸の内昭和ビル

取次所 内郷村報社

# 有限内郷信用組合

一村の金融と、相互扶助  
運をつくる事にしたもの

て、全員整列、水勢試験、  
平署長檢閲、組頭の訓示、  
來賓の祝辭、火防員表彰、  
宴會等の順序を以て、盛大

警察官更迭  
本村警察官は左の通り更  
迭した。

短歌  
曉鷗聲 東京 遠藤 二郎  
一村の神のには、こりまつなきて  
天地の、いふあつたよきとき

### 教育制度改革概論

矢野 恒太序 大内民惠著  
服部宇之吉 (四六版二二頁 定價五十錢 郵稅六錢)

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同枚舉に違あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威  
京大教授小西重直博士  
書を寄せて曰く、多年御體験、實地ノ御試練ニ基ク眞摯愛國ノ大精神ヲ拜味仕リ不思感激ニ打テレ申候云々。

發行所 日本評論社  
東京丸の内區和光ビル  
取次所 内郷村報社

- 高坂四界 石井政吉 根本 繁
- 高坂四界 佐々木登吉 伊達 榮助
- 高坂三卸 村上喜市 青山 崔村 同
- 高坂切替 藁谷安義 鈴木 彌平 同
- 野地兵二十五
- 兩國彌一郎
- 松崎 重吉
- 波邊 進保
- 藤藤 進

軍人後援會  
凶作地救濟  
村内各區長及諸有志諸氏

- 金五圓 樺太 渡部 孝一
- 金五拾錢 二本松 種積 豊松
- 金五拾錢 同 小島 里治
- 金壹圓 平町 鈴木染物店

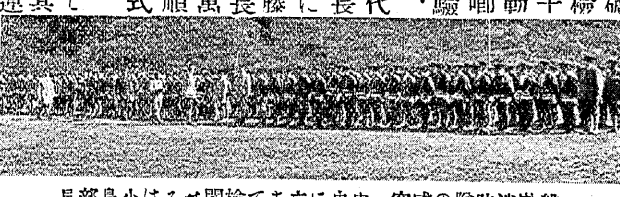
開催 演武競技を行ひ、佐藤部長の告別式を舉行、重なる出席者石橋猪狩大友七海根本の諸氏。

## 有限内郷信用組合

一村の金融と、相互扶助の機關として、信用組合の必要なるは、改めて説明を要さない事であるが、本村に於ても漸次其發達を見るは、洵に喜ばしき次第である。今昨年度の成績を見るに、組合員二百七十二人、口數一千二百二十一、出資金額貳萬四千貳百圓に達し貳千貳百五拾貳圓七拾九錢

### 磐炭消防檢閱

幹部三十八名、班員二百四十二名、唧筒五臺より成る磐城炭礦消防部の檢閱は一月十日金坂運動場に於て唧筒水勢試験、全員檢閲、菅原所長代理小島部長の諭告並に挨拶、伊藤平警察署長の祝辭、萬歳三唱の順序に檢閲式を舉行し、余興として梯子登り其他數番の運動競技あり。引續き幹部は集會所に於て、伊藤署長駐在巡查村内各消防幹部等の來賓と共に祝賀の宴を擧げて散會した。



長部島小はるせ閣檢てち立に央中 容威の隊防消炭磐

### 野木村長陳情

二月二日村井縣知事の來郡を好機として、我野木村長は住吉屋本店に之を訪問して、箕輪村に通ずる道路と、阿彌陀堂道路の、縣道編入に關し、詳細に陳情して其諒解を得た。

### 特志看護婦志願

御臺境鶴巻の草野つめよ女史は、義勇奉公は此時にありと、健氣にも其筋に、特志看護婦として從軍を出願し、一切の準備を整へて出發命令を待つて居る。

天 人 會  
癡て起きて飲みて食ひて働きて遊んで寝て終はる我世や  
は之れ我々の生活全部である。かくて我々は、自己を、環境を、主觀し、客觀しする時に、何物かが感想となつて浮ぶであらう事は、事實として否定する事は出来ぬ。而して其處に我々は哲學を、眞理を、宗教を、藝術を見出すのである。其見出したる何物かを、互に告白し、披きさらすことならば、其處に我々は、我々の生活の上に出したる何物かの、發表機關である。之を實現する爲に左の規定をつくる。共鳴の 何人ニ雖も之を歓迎する。

天 人 會  
警炭役員有志の賛同を得て、其創立を發表した天人會の趣旨及規定は、別項の通りで、入會申込者二十余名に達し、選舉後に其發會式を擧げる事になつた。講演など云ふと、至極鹿爪に其感想を述ぶるに過ぎないものであるから、共鳴者はなるべく早く入會せらるゝ事を希望する。

### 宮火防組出初式

坂グラウンド及昭和館に於て、全員整列、水勢試験、平署長檢閲、組頭の訓示、來賓の祝辭、火防員表彰、宴會等の順序を以て、盛大なる出初式を擧行した。

規定一、本會ハ天人會ト稱シ、事務所ヲ内郷村報社内ニ置ク  
二、本會ハ毎月一回(會場及日時ハ臨時之ヲ定ム)例會ヲ開キ、晚餐後二名乃至三名ノ會員ガ、講演ヲナスモノトス。講演者ハ豫メ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム。但シ會員外ノ人士ヲ招聘シテ、臨時講演會ヲ開クコトアルベシ。三、講演ヲナシタル會員ハ、當番幹事トシテ爾後一ヶ月間(會務ヲ執掌スルモノトス。四、會費ハ一ヶ月五十錢トス  
昭和七年一月一日 發起者 大内民惠 入會申込所 内郷村報社

讀者の聲  
磐炭從業員君へ。御希望通りお話しいたしました。尙御目にかつて非御來訪下さい。(記者)

短 歌  
曉鷄聲 東京 遠藤 二郎  
産土の神のにはさきまつなきて  
一村よよむあかつきのこゑ  
天地のもの、れふりはあかさきと  
心たけふかけの聲にさめゆく  
同 長沼 磐瀬 弘治  
岩屋戸の神代おほえて新年の  
あかつき告ぐるこりの聲かな  
同 信天 佐藤 賢  
八雲立つ出雲の國の朝あけに  
生命を賛美ふにはさきりの聲  
挽 歌 東京 近藤 菊子  
時を得て事や成さぬと思はゆる  
君がこゝろのいほしきかな  
父を悼みて(其二)  
面おへるその白布にゆらめける  
炎のいろも見える人は  
黄昏ればものさびしやわが父の  
いまは思はゆる陽見れば  
もの見れば哀しき父の思ひ出に  
誘はれ泣きぬ 扇机の前  
俳 句  
麥苗吟社  
春近き池の廻りの枯菖蒲 雲 浦  
味氣なき密柑の味や春隣 修 二  
春近き土間に蜘蛛の柄削り焼半 仙  
着腹れて寒鮎釣の尻たり臭不味男  
さつぷり寒鮎釣の声の中二樓  
戻れば寒鮎釣の淋しさよ 野 齋 司  
芦中の寒鮎釣の辨當かな 扇 要 子  
初實やみんな揃の赤穂 六 王  
れ轉びの儘に響くる振りり覺夢峯  
萬歳の一人は酔ふて居たり覺夢峯  
門松の影が來て居る福壽草斗 半  
寒鮎を焼く戸の外の時雨居り撫山  
寒月のたばしる刀を納めけり  
火薬庫の土提の歩哨や寒の月  
赤兵四聯隊 目黒 星 甫  
初明りほのくさある藏王哉  
白石 鈴木 綾園

香取鹿島兩神宮に出征勇士の武運長久を祈る

滿洲に於ける、我思勇なる軍人諸子各位、殊には我内郷出身

- 高橋正一 山野正直 井砂正雄 志賀武弘 中塚貞治 林時次郎 矢吹力榮 遠藤秀男 熊坂源一 市川正義 鈴木吉三郎 鈴木久工門 鈴木常松 猪狩保 野崎清 鈴木正吾 遠藤正直 川上利平 佐藤義雄 大藤義雄 佐藤泰雄 郷里杉田出身 步二九一 國分新吾 柴田貞治 渡邊喜平治 岩本平治 吉田喜代治 佐藤常四郎 步四、六

大内民恵

御無事に凱旋せらるる様に祈願して居るのであります。其感謝と祈願、其はた、家に在つては何か念が届かない様な、相濟まない様な感に、ひしひしと居ても立て居られない様な氣になり、こゝに神詣うて思ひたつて、去る一月三日一家五人うちつれて、我國最古の武神、香取鹿島の兩官幣大社に參詣し、社前にぬかつきて、諸君の御奮闘御苦勞を感謝し、我國の諸君の、武運長久を祈願したのであります。



一人五家一 禱願前神

我國を、我武士を守りませよ我等五人は、れきまつるなりかくて兩社のお札とお守りを受け歸り、内郷の方は私と妻とで、杉田の方は留守居の甲斐根老を頼はして、諸君の御留守を、一々訪問して、御札は神棚に納めて毎日祈願する様お守は諸君の方へ送つていたたく様に御願いたしましたのであります諸君！ 上には、敬聖文武なる大元帥陛下がまじまじと、參謀總長は閑院宮殿下であります軍令部長は伏見宮殿下であります下には八千萬同胞が、一致して國難に當る事を覚悟して居るのであります。諸君！ 何事も人事を盡して天命を待たります。

出征勇士書簡抄録 (一)

身命は之を御佛に一任して、自重自愛國の爲に、最善を盡して、ぞ奮闘して下さい。之が我々の願望なのであります。終りに一言

▲川上利平君。(前略) 今はや君に捧げし此命思ひ發す處何もなし。勇み行く我は今北軍に在りて命令を待つのみ。(後略) 父君宛 ▲井砂正雄君。(前略) 事變突發以來各地の戦闘に参加致し候へ共幸に身に微傷に負はず君國の爲益々奮闘を繼續致居候。(中略) 益々以て風雲の急なるもの、如く推察致居候へば一層緊張して皆々様の御期待に添ふ決心に候。記者宛 ▲山野正直君。(前略) 御蔭様で負傷も全快丈夫で軍務に従事して居りますから御安心下さい。(中略) 今兵隊や馬賊の討伐をして居ります。二大隊は城内の警備、我一大隊は途中で治安維持の爲に警備して居ります。(後略) 記者宛 ▲中塚貞治君。(前略) 又此度精勤賞を右肩に付けて毎日大元氣で努力して居ります。よく上官の命令に服従し、國家の干城として、光輝ある軍人として、大任を遂行する決心でありますから御喜び下さい。(後略) 兩親宛 ▲佐藤泰雄君。(前略) 爾後數度の戦地生活にもかすり傷もつけず元氣で重大なる軍の連絡をこる電信の任務を遂行して居ります。匪

附記しますが、軍務御多忙の中から、折々御音信下さる御高情に對して、厚く御禮を申上げます。又我村報は毎號贈呈いたします。

▲大竹義雄君。九月十九日出動命令下りてより、奉天長春吉林等、ハルミ各地の戦争に、參加いたし何れも大勝利を得ました。皆様の御蔭で無事軍務に従事して居りますから御安心下さい。記者宛 ▲鈴木常松君。(前略) 一死報國の決心あれば、強敵も酷寒も恐るゝに足らず。嵐の前に放り行く櫻



君治貞塚中



君代田吉

▲野崎清君。(前略) 僕は最初から此世に居ない者と思つて下さい。男一人立派に死んで見せて下さい。でもなまじおかないで下さい。それが何よりの手向です。よく死んだまほめて下さい。氣持は死ぬまで、(後略) 記者宛 ▲吉田喜代治君。(前略) 幾多尊き先輩の血を流して得たる滿蒙の利権を、どうして彼等に渡され候や、我々は死を決して護る覚悟に候(後略) 記者宛

花、即ち我等昭利士の花であります。流轉する運命に憤服する之我等の本望で御座います。近く某方面の攻撃がありましたが、大に奮闘致します。もし敵軍にたなれた時は、死して母兄弟に孝行をします。(後略) 令兄宛 ▲吉田喜代治君。(前略) 幾多尊き先輩の血を流して得たる滿蒙の利権を、どうして彼等に渡され候や、我々は死を決して護る覚悟に候(後略) 記者宛

出征勇士諸君に御願 お暇の折に御通信下さい。短いのは其儘、長いのは抄略して掲載いたします。尙御寫眞も戴きたい。

内郷村報の六大使命

- 一、政黨派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
- 三、本村共済事業の徹底を期す。

- 四、村内の善事美行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村に本村出身者及本村關係者の聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

本紙發行は内郷一家の事業に、其の責任を全うするに在り。書を案ぬるものなり。

記者は之を望見した時に、小屋を想像せざるを得なかつたのである。猿々、あるかの様に、喧嘩するやらの亂暴をつつて

の國では、「車内を他家の座敷と思へ」といつて、清潔静肅は勿論、互に禮儀を正しくする事は、驚くばか

内郷村報

一回一月毎 毎部一元 郵費在內 大内民恵

發行所 内郷村報社 編集者 大内民恵

印刷所 内郷村報社

電話 内郷村報社

郵便 内郷村報社